

## 令和2年度香川大学卒業式・修了式 学長告辞

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界各地へ拡大し、1年以上が経ちました。日本の現状もまだまだ終息には程遠い状態です。そのため、昨年につき本年もこのような変則的な形での卒業式・修了式となりました。卒業生・修了生の皆さん全員にお目にかかって告辞を述べられないことを大変残念に思っております。とはいえ、学部生の皆さんが所定の単位をすべて修得され、さらに大学院生も研究成果を見事にまとめあげられ、本日を迎えられることを大変嬉しく、同時に学長として誇らしく思っております。本日、4 キャンパスに分かれて参加されております学部卒業生 1217 名、大学院修了生 261 名に対し香川大学の教職員を代表して心より祝福の気持ちをお伝えします。同時に、今日まで皆さんを支えてこられたご家族や支援者の皆様にもお祝いと感謝の意を表する次第です。

本日で香川大学としては 58,256 名の学部卒業生と 5,950 名の大学院修了生を輩出したこととなります。1 昨年設立しました香川大学校友会は、学部の枠を超えて大学全体で卒業生・修了生の皆さんに香川大学を応援していただく組織です。香川大学校友会は卒業生・修了生の皆さんに大学の様々な情報をお届けするとともに、社会にはばたき活躍される香川大学卒業生・修了生としての連携を強

めていただく役割を果たしております。皆さんもどうか、今後は在校生諸君に対して熱いエールを送っていただくとともに、校友会を通じて香川大学 OB/OG の輪を広げていただきたいと思います。

さて、卒業生および修了生の皆さん、100 年に一度とも言われる世界中を襲った新型コロナウイルスによる今回のパンデミックの中、様々な困難を乗り越えてよく耐え、そしてよく頑張り、本日の卒業式・修了式を迎えられました。突然始まった遠隔授業にとまどうことも多かったのではないのでしょうか。なかなか友人に会えないつらさを身にしみて感じたのではないかと思います。アルバイトもままならず、生活費の工面にも難渋したことでしょう。しかしながら今回のコロナ禍は我々に多くのことを気づかせてくれるきっかけにもなったように思います。人類は、飛行機に乗れば世界中をわずかな時間で往来できる便利さを享受していましたが、その便利さが裏目に出て、逆に目に見えないウイルスが人の体に忍び込み、瞬く間に世界中に伝搬してしまいました。一つの国が感染を制御出来ても、世界中が安全にならなければ結局我々は身動きが取れないことも体感しました。一方、世界中の指導者と呼ばれる人たちの言動にも注目が集まりました。危機的場面におけるリーダーの発言、ふるまい、それに反応し、時に反抗する各国の人々の姿がリアルタイムで世界中に発信されてきました。

我々地球上に生活する人類が、利便性を追求するあまり犠牲にしてきたものが如何に多く、そのために逆に人類が苦しんでいる現実が否応なしに突きつけられました。

今回のコロナ禍が示唆するように、皆さんがこれから活躍すべき21世紀社会は、変化が激しく、不確実で複雑、なおかつ曖昧性の時代と言われています。言葉を変えると、問題の本質がどこにあるのが見えにくい、分かりにくい難問が人々に気づかれぬようにひたひたと増加してくるということだと思われれます。このような時代では、経験を数多く積んだ人が必ずしも正しい解決法を提案できるとは限らなくなります。これからの近未来、人間はどのようにふるまい、成長していけばよいのでしょうか。私は、「心持ちの軽さ、軽やかさ」がとても必要になると思っています。あの人は人間が軽い、というのはどちらかと言えば他人を悪く批評する言葉として耳にしますが、「心持ちの軽さ」はそういう意味ではありません。先入観にとらわれない、自由な発想が出来る、一方で先輩や後輩といった年齢の差や経験した数の違い、その人の社会的名声や役職といった枠で人を評価せず、真っ白な気持ちで他人の意見を聞き、自分の意見を率直に表すことのできる心持ちを持った人間です。

皆さんはこれから社会に飛び出し、様々な分野で困難な問題の

解決にあたることになると思います。多くの問題解決は一人の力ではなくチームワークで解決にあたることになりませんが、日本ではチームワークというと、気配りとか協調性の方に目が向きがちです。しかし、本当に力のあるチームは、構成メンバー一人ひとりが自信に満ち溢れ、軽やかな心持ちで意見をぶつけ合いながらも力を合わせ、問題解決に向かいます。チームの一員として要求される能力はいくつかありますが、まずは問題の本質は何かを感じることができる感性が必要です。そのためには、常に皆さんの心が瑞々しく潤っている必要があります。心の健康という言葉がありますが、美しい音楽や絵画を鑑賞するのも良いですし、気の置けない仲間とくつろいだ余暇を楽しむのも良いでしょう。心の健康を保つのは体の健康を維持するのと同じくらい社会人としての責務になってきます。一流と呼ばれるアスリートやアーティストは皆、ここの部分が一流なのだと思います。もう一つ重要なことは、自信を持って自らの意見を率直に表明するためには、常に自分の脳に新しい知識や情報をインプットして刺激を与えることです。そのためには卒業した後も常に学び続ける必要があります。幅広い学びは皆さんを賢くするだけでなく謙虚にもします。謙虚な人は心持ちが一層軽くなると思います。大学は皆さんが学びなおしをするためにいつでも門を開いております。香川大学大学院は令和4年4月の開

講を目指して新しい研究科を準備しています。この研究科では、社会の目まぐるしい変化に対応し、幸福度の高い社会を構築するためのイノベーション創出を目指した文理融合型の教育や研究を数多く展開する予定です。学部卒業生の皆さんには、これからの人生の様々なステージや岐路で、大学院という選択肢が存在することを心にとどめておいてほしいと思います。今回大学院を修了された方々も、将来大学院に再び戻ってきていただき、さらに学びの幅を広げ、深めていただくことを大いに歓迎します。

私は学長として、卒業生・修了生の皆さんが香川大学の卒業生・修了生であることを誇りにし、実社会でのチームワークにおいて掛け替えのない存在として光輝く活躍をされることを期待しています。

みなさんのこれからの活躍を心から祈っております。本日はおめでとうございました。

令和3年3月24日

香川大学長 笥 善行